



ベルリン映画祭 最優秀女優賞

寺島しのぶさん受賞

【ベルリン＝深津純子】第60回ベルリン国際映画祭の授賞式が20日夜（日本時間21日未明）あり、コンペティション作品「キャタピラー」（若松孝二監督）に主演した寺島しのぶさん(37)が最優秀女優賞（銀熊賞）を受賞した。

日本人の女優賞受賞は「にっぽん昆虫記」（今村昌平監督）、「彼女と彼」（羽仁進監督）の2作の演技で1964年に受賞した左幸子さん、75年の「サンダカン八番娼館 望郷」（熊井啓監督）の田中絹代さんに続く3人目。世界3大映画祭では、04年のカンヌ映画祭で柳楽優弥さんが男優賞を受賞した。

寺島さんは、太平洋戦争の中国戦線で両腕両脚を失った帰還兵の妻役。「軍神」とあがめられる夫への献身を「お国のため」と強いられる。その苦悩と悲哀を、性愛場面を含めて繊細に表現した。

寺島さんは舞台「血は立ったまま眠っている」の東京公演終了



「キャタピラー」で熱演する
寺島さん―若松プロ提供

後、2日間だけベルリン映画祭に参加。公式上映に間に合わず、結果発表の前日に帰国し、舞台公演を控えた大阪で朗報を受けた。

授賞式には若松監督が代理で登壇。女優賞の銀熊像を受け取り、携帯電話のメールで届いた寺島さんのメッセージを代読した。「すべての国で戦争がなくなることを祈ります。殺し合うことでは何も解決しないんだということが、この映画を通じて伝わればいいと思います」という言葉に、客席から大きな拍手がわいた。